

## 入院サポート業務について



入院サポート担当 主任 溝田 園子



平成27年3月より、外来に入院サポート相談室が立ち上げとなりました。当院では、患者さんを生活者として捉え、入院前から早期にサポート担当看護師が介入しています。

患者さんやご家族に寄り添い、入院前、入院中、退院後を見据えた真のニーズの把握と共有化を図ります。さらに、外来と病棟の連携、地域連携室や院内関係部門との協力によって、可能な限り住み慣れた地域でその人らしい生活を実現するための支援を行ってまいります。

現在は看護師2名で、南棟1階の入院サポート相談ブースで1日10名程度の患者さんの入院サポート業務を行っています。検査・処置、入院後の予定等について、クリニカルパスを用いて詳しく説明しています。外来診療後、患者さんが負担なく聞くことができるように概ね30分ほど行っています。また、患者さんからの質問や気になることもお伺いし、個々に対応しています。

循環器内科では心臓血管カテーテル、消化器内科では大腸ポリペクトミー等の入院予約が多く、繰り返し入院される患者さんもいますので、不安の軽減が

図れるよう説明しています。外科、整形外科、泌尿器科では手術を予定されている方への体調管理、禁煙等についても指導しています。白内障手術を受ける眼科患者さんは、高齢で難聴の方が多いため、できるだけ分かりやすい説明を心がけています。

入院予約時に介入した患者さんは、入院当日は入院課へお迎えに行き、病棟までご案内し、申し継ぎをしています。

まだまだ課題も多く、試行錯誤の段階ですが、思いやりのある看護の提供に繋がるよう、入院サポート業務に取り組んでいきたいと思っています。

## 放射線業務を 画像センターへ移転

放射線室 技師長 橋本 信男



N棟地下で20年余り行ってきた放射線業務を一部残し、5月7日より新S棟1階画像センターへ移転しました。今回完成した画像センターは総合受付ホールに近く、入口の前には、木々の緑が眺められる中庭テラスがあり、イメージも明るくなりました。

画像センターには、X線撮影装置3台、X線テレビ装置2台、CT装置2台、MRI装置、マンモグラフィー装置、X線骨密度測定装置、放射線治療装置が備わっております。このうち、X線撮影3台、MRI、マンモグラフィーは新規に導入いたしました。平成21年3月からフィルムレス運用を開始してきましたが、今回の新規マンモグラフィー（富士フィルム社製）の導入で、全ての検査においてモニターでの画像診断が行われるようになりました。また、放射線治療は平成26年4月に新規装置（東芝エレクタ社製）を導入し、運用しております。

その他、新S棟3階に完成した心臓カテーテル室にも血管撮影装置（フィリップス社製）を新規導入いたしました。検査室も広くなり、充実した環境に整備されております。

新しくなった環境で、我々放射線技師は、放射線科をはじめ各科の医師やメディカルスタッフと連携し、著しく変化していく医療に対応出来るように学び、努力していく所存です。

←新しく導入されたマンモグラフィー装置



## 「リハビリセンター」移転と 業務紹介

リハビリテーション室長  
菊池 健蔵



この度、リハビリテーション室は新棟4階の4S病棟（地域包括ケア病棟）横に移転しました。名称も、リハビリテーション室から「リハビリセンター」に変更しました。

施設の広さは400㎡と約2倍になり、大きく拡張されました。また、同じ階には屋上庭園を兼ねたリハビリテラスが整備され、晴れた日には屋外リハビリも楽しめます。

リハビリスタッフは、理学療法士14名、作業療法士5名、言語聴覚士2名の計21名が在籍しています。整形疾患、脳血管疾患、心臓疾患、呼吸器疾患等のある患者さんを対象に、幅広くリハビリテーションを実施しています。

医療改革のもと、リハビリテーションも例外ではなく、治療効果すなわち効率的な結果が求められています。そのためには、治療実績を検証する作業も必要であり、多くの学会等で発表を行っています。また、研修システムによる、呼吸・心臓・糖尿病などの「認定療法士」の資格取得により、質の高いリハビリテーションを提供出来るよう日々研鑽に努めています。

今回の移転により、より充実したリハビリテーションが提供できるよう、療法士一人一人が考え、行動できる組織づくりを目指しています。

